

平成26年度研究調査報告

- 1 修学旅行の実施状況調査
- 2 修学旅行の課題調査

『学びの集大成を図る修学旅行』
の取り組みについて

～関東・東海・近畿 地方集計比較～

【感性をはぐくむ修学旅行】

平成27年3月

公益財団法人全国修学旅行研究協会

目 次

I	調査研究のねらい	1
II	調査状況	2
	1 調査の対象	
	2 調査の時期	
	3 調査内容	
	4 回答状況	
III	実施概況	3
	1 実施時期	3
	2 実施日数	
	3 実施方面	4
	4 訪問地(県)	5
	5 地区別旅行費用	6
	6 地区別体験活動費用	7
	7 方面別費用平均	8
	8 方面別体験費用平均	8
	(参考)方面別旅行費用	
IV	食物アレルギーの現状について	10
	1 アレルギー症状の生徒の有無	
	2 アレルギー生徒の人数	10
	3 アレルギー対策について	
V	旅行期間中の安全対策について(携帯電話等の利用)	11
	1 生徒が利用したもの	
	2 事故発生時の対応策	11
VI	「学びの集大成を図る修学旅行」の取り組みについて	13
	1 修学旅行のねらいで、重視したものは何か	13
	2 生徒が主体的に取り組む方法	14
	3 現物に触れて最も影響を受けたもの	14
	4 被災地復興の支援について	15
	(1)修学旅行に関連して復興支援活動を行ったか	15
VII	まとめ	16

I 調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事『旅行・集団宿泊的行事』に位置づけられる。学習指導要領によれば、特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

また、旅行・集団宿泊的行事の内容は、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

特別活動の目標達成にあたっては、ねらいや育てたい資質・能力を明確にし、体験活動を充実させていくこと、各教科等との関連を図った指導を実践することとしている。

子供の現状から考え、知識技能を実生活の場でいかに活用するかという課題に向けて、修学旅行の果たす役割は大きいものがある。

「感性をはぐくむ修学旅行」というテーマの実現に向けて、今年度は昨年に引き続き修学旅行と学習の関係について調査研究をすることとした。まず課題調査として、

- ①修学旅行のねらいについて、学校で何を重視したのか（複数回答可）
- ②生徒が主体的に取り組むため、学校ではどのような方法がとられていたのか（2つまで可）
- ③現物に触れて（見て、聞いて、体験して）最も影響を受けたものは何か

以上の3点について調査した。

継続調査として、実施時期や実施方面、費用などについて調査した。さらに、今年度は安全対策の観点から、班別行動時の連絡方法や緊急避難対策がどのように講じられているのかについても調査した。

また、各学校における食物アレルギーの現状についても調査した。

生徒の興味関心の高い修学旅行に於いても、なかなか「主体的な取り組みが困難」という昨年の結果を踏まえ、学校としてどのような手だてを講じているのか調査した。

修学旅行の宿泊地については関東地区、東海地区、近畿地区それぞれの大きな特徴が見られた。関東からは関西方面へ、日本の伝統文化に触れる目的で、東海地区からは関東方面へ平和学習と職場体験学習を目的として、近畿地区からは沖縄方面と関東方面、九州方面、北陸信州方面と多方面へ平和学習や自然スポーツ体験学習、生活文化体験（農家体験）学習を目的として実施していた。

修学旅行費用については年々僅かながらの高騰が見られたが、26年度は近畿地区の減少により全体としても僅かに減少となった。

増加傾向にあった修学旅行費用に一石を投じるものとなった。

II 調査状況(平成26年度修学旅行の実施状況調査)

1 調査対象

関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
 東海3県(愛知・三重・岐阜)の公立中学校
 但し、愛知県は県中学校長会調査データを使用
 近畿2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)の公立中学校

2 調査の時期

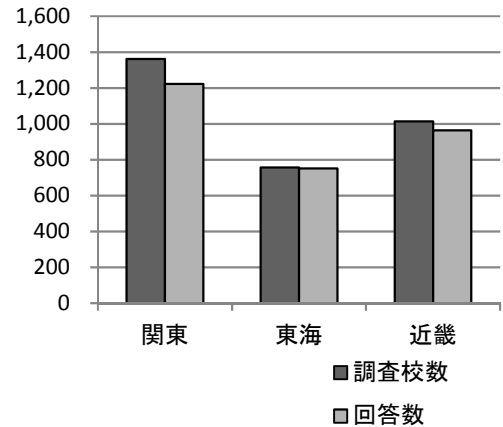
平成26年7月～11月

3 調査内容

- (1) 平成26年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
 時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用
- (2) 修学旅行での食物アレルギー対策について
- (3) 修学旅行期間中の安全対策について
- (4) 学びの集大成を図る修学旅行の取り組みについて

4 回答状況

	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,362	756	1,013	3,131
回答数	1,223	751	964	2,938
回答率	89.8%	99.3%	95.2%	93.8%



関東地区

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	229	160	168	421	384	1,362
回答数	149	160	113	417	384	1,223
回答率	65.1%	100.0%	67.3%	99%	100.0%	89.8%

東海地区

	三重	岐阜	愛知	合計
調査校数	157	185	414	756
回答数	156	181	414	751
回答率	99.4%	97.8%	100.0%	99.3%

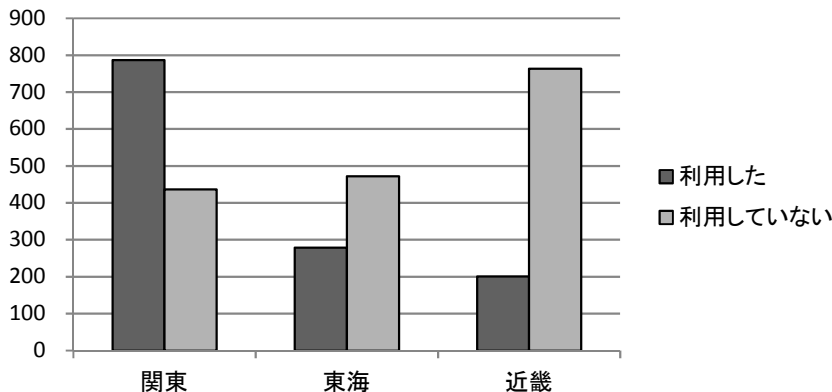
近畿地区

	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計
調査校数	97	95	104	334	262	121	1,013
回答数	97	93	104	313	262	95	964
回答率	100.0%	97.9%	100.0%	93.7%	100.0%	78.5%	95.2%

連合体を利用していますか

	関東	東海	近畿	合計
利用した	787	279	201	1,267
利用していない	436	472	763	1,671
利用率	64.3%	37.2%	20.9%	43.1%

・連合体の利用は全体で約43%
 近畿地区は方面や利用交通機関が他の2地区とは異なり多方面になる。利用率の低い要因となる。
 ・東海地区は片道新幹線利用となり連合体利用が難しい。



Ⅲ 実施概況

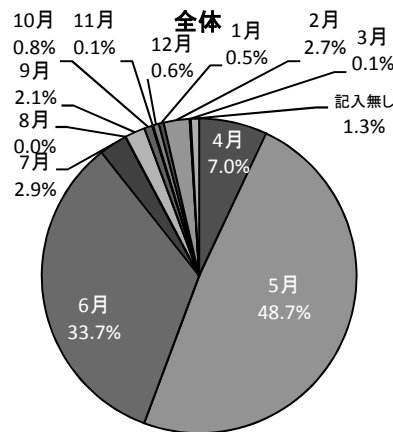
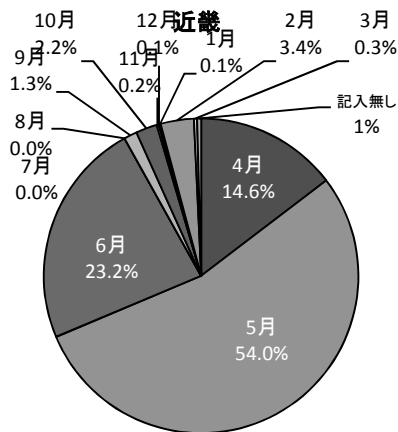
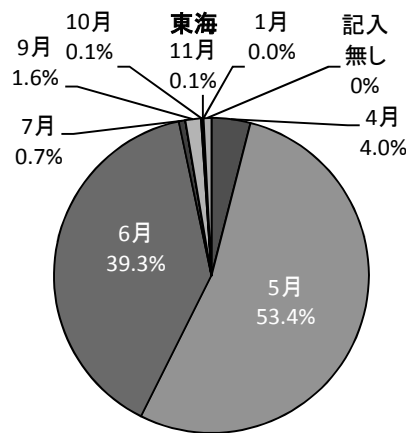
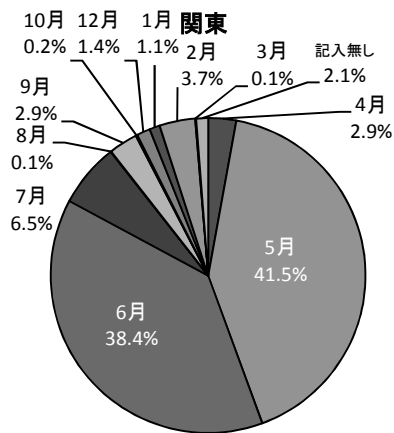
1 実施時期

	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
4月	35	30	141	206	7.0%
5月	508	401	521	1,430	48.7%
6月	470	295	224	989	33.7%
7月	80	5	0	85	2.9%
8月	1	0	0	1	0.0%
9月	36	12	13	61	2.1%
10月	2	1	21	24	0.8%
11月	0	1	2	3	0.1%
12月	17	0	1	18	0.6%
1月	13	0	1	14	0.5%
2月	45	0	33	78	2.7%
3月	1	0	3	4	0.1%
記入無し	15	6	4	25	0.9%

・実施時期5～6月の傾向
(24年)(25年)(26年)
83%⇒82%⇒82%

・9～10月実施校
(23年)(24年)(25年)(26年)
144校 ⇒81校 ⇒85校⇒85校
23年度は東日本震災の影響で9～10月実施が増え、24年度以降は80校強となる。

・2月実施校は関東地区45校、近畿地区33校となっている。これらは2年生に於いて実施している。(スキー修学旅行もある。)

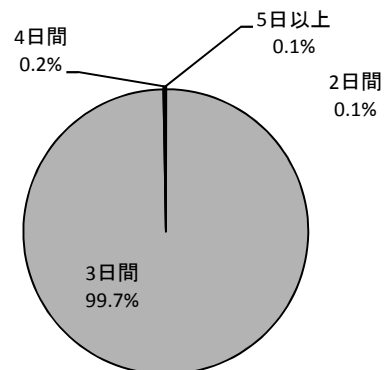


2 実施日数

	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
2日間	0	1		1	0.1%
3日間	1,212	332		1,544	99.7%
4日間	2	1		3	0.2%
5日以上	1	0		1	0.1%

*5日以上：海外ホームステイ（愛知除く）

・実施日数は3日間が99.7%となっている。

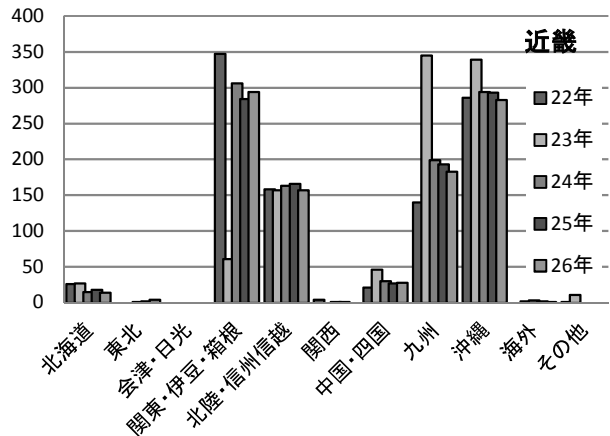
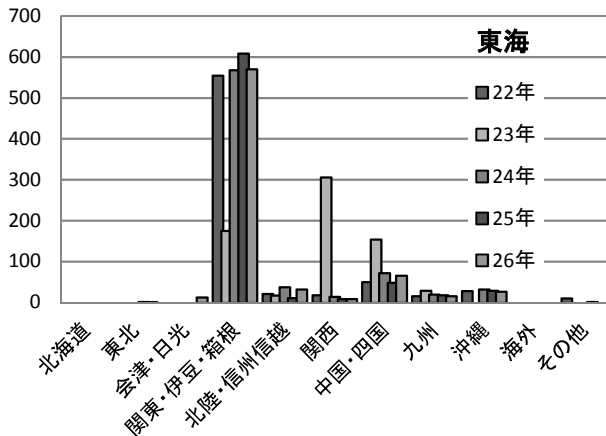
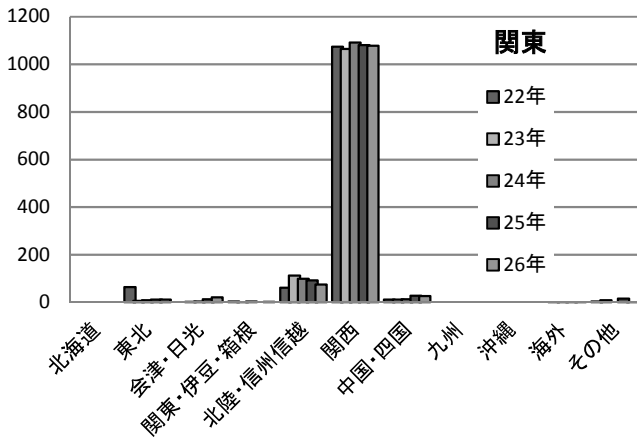


3 実施方面 (平成25年度)

	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			18	18	0.6%
東北	11	2	2	15	0.5%
会津・日光	13			13	0.4%
関東・伊豆・箱根		608	284	892	30.2%
北陸・信州信越	92	11	166	262	8.9%
関西	1,081	9	1	1,091	36.9%
中国・四国	28	49	27	104	3.5%
九州		18	193	211	7.1%
沖縄		29	293	322	10.9%
海外	1		2	3	0.1%
その他	16	2		18	0.6%
合計	1,242	728	986	2,956	100.0%

(平成26年度)

	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			14	14	0.5%
東北	11	1	4	16	0.5%
会津・日光	21	13		34	1.2%
関東・伊豆・箱根	2	570	294	866	29.5%
北陸・信州信越	75	32	157	262	8.9%
関西	1,078	9		1,087	37.0%
中国・四国	27	66	28	121	4.1%
九州		16	183	199	6.8%
沖縄		27	283	310	10.6%
海外	1	0	1	2	0.1%
その他	1			1	0.0%
合計	1,216	734	964	2,914	99.2%



(関東地区)

関東地区は約90%が関西(含む広島)方面へ
(25年) (26年)

1109校(89.3%)⇒1105校(88.1%)

東北・会津日光・信州方面の変動

(22年)(23年)(26年)

東北) 21校⇒ 6校⇒ 11校

会津・日光) 43校⇒ 2校⇒ 13校

信州) 60校⇒ 107校⇒ 92校

*東日本大震災後、急減した東北方面が徐々に増えつつある。信州は千葉県の中学校が約90校ほど実施している。

東北方面は震災前の約50%まで回復する。

会津・日光方面は約30%の回復にとどまる。

信州方面は約150%となる。

(東海地区)

関東・中国四国・関西方面の変動

(22年)(23年)(26年)

関東) 554校⇒175校⇒ 570校

中国四国) 50校⇒ 154校⇒ 66校

関西) 18校⇒ 306校⇒ 9校

沖縄) 28校⇒ 0校⇒ 27校

23年の東日本大震災後に激減した関東方面が24年度には急増し震災前よりも増加傾向にある。

中国四国方面も22年度より増加傾向にある。

関西方面が減少傾向である。

(近畿地区)

沖縄、関東、九州、北陸信州方面の変動

(22年)(23年)(26年)

関東) 347校⇒ 61校⇒294校

中国四国) 21校⇒ 46校⇒ 28校

九州) 140校⇒345校⇒183校

沖縄) 286校⇒399校⇒283校

東日本大震災後、関東方面が激減して中四国、九州、沖縄方面が急増したが、徐々に22年度の状態に戻っている。

但し、関東方面はやや減少傾向があり、九州方面が増加傾向にある。

沖縄方面も22年度当初に戻る。

4 訪問地(県)(複数回答) 校

	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			13	13	0.3%
青森県	3			3	0.1%
岩手県	4			4	0.1%
宮城県	3	1	3	7	0.2%
山形県	5			5	0.1%
福島県	18		1	19	0.5%
栃木県	8	13		21	0.5%
群馬県	1			1	0.0%
千葉県		91	107	198	4.9%
東京都	3	452	144	599	14.7%
神奈川県		11	6	17	0.4%
新潟県	4		3	7	0.2%
長野県	71		138	209	5.1%
山梨県		32	36	68	1.7%
静岡県	1	15	1	17	0.4%
愛知県	2			2	0.0%
岐阜県	14		8	22	0.5%
富山県			2	2	0.0%
石川県		1	1	2	0.0%
福井県				0	0.0%
滋賀県	7			7	0.2%
和歌山県		1		1	0.0%
京都府	1,105			1,105	27.1%
大阪府	42	2		44	1.1%
兵庫県	8	1		9	0.2%
奈良県	1,077			1,077	26.4%
広島県	26	61	9	96	2.4%
山口県		1	2	3	0.1%
岡山県		3	2	5	0.1%
島根県			1	1	0.0%
愛媛県			1	1	0.0%
徳島県			11	11	0.3%
高知県			2	2	0.0%
福岡県			2	2	0.0%
長崎県		16	141	157	3.8%
大分県			2	2	0.0%
佐賀県			5	5	0.1%
熊本県			5	5	0.1%
鹿児島県			25	25	0.6%
沖縄県		27	276	303	7.4%
海外	1		1	2	0.0%
合計(延校数)	2,403	728	948	4,079	

・関東地区に於いては
訪問地は京都・奈良が圧倒的に多い。
方面別にみると、信州方面で(千葉県の学校)が農家
民泊や農家体験をしている学校がある。

・東海地区に於いては
東京方面が多く、これに千葉、山梨が続く。
関東地区以外に、広島、沖縄や長崎が続く。

・近畿地区に於いては沖縄方面が最も多く、次に、東
京、長崎、長野、千葉と続く。北海道方面にも13校が実
施している。
四国、九州方面へと広く実施している。

※割合は全回答数4,079校に対する値

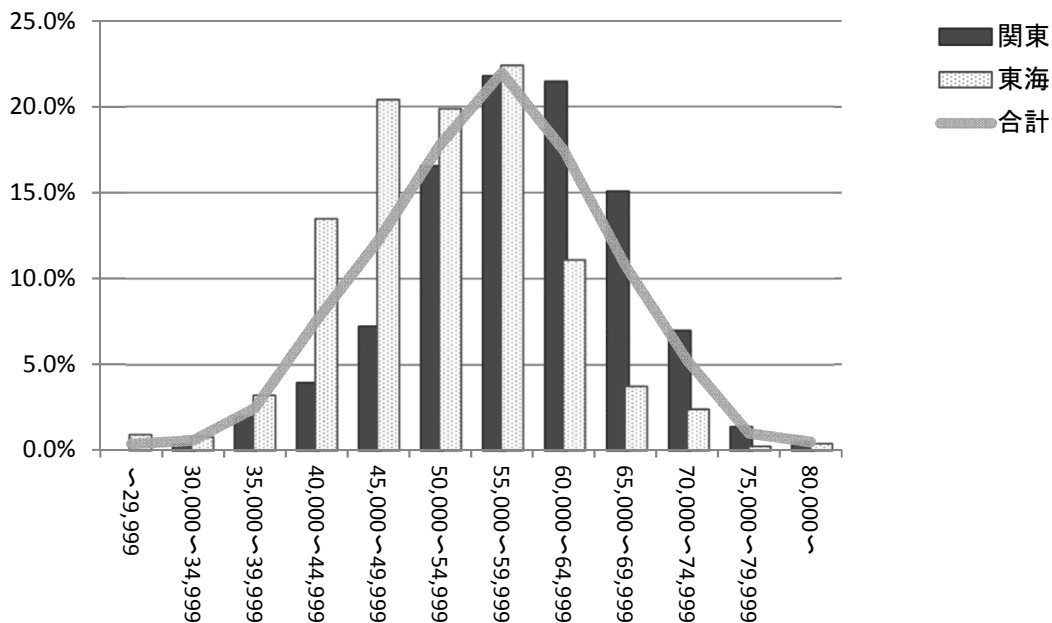
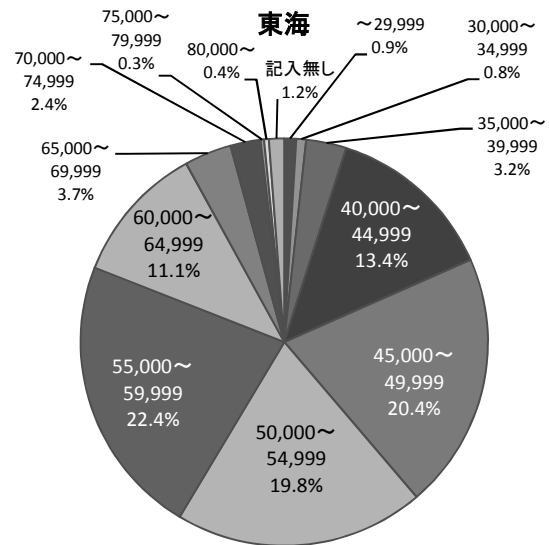
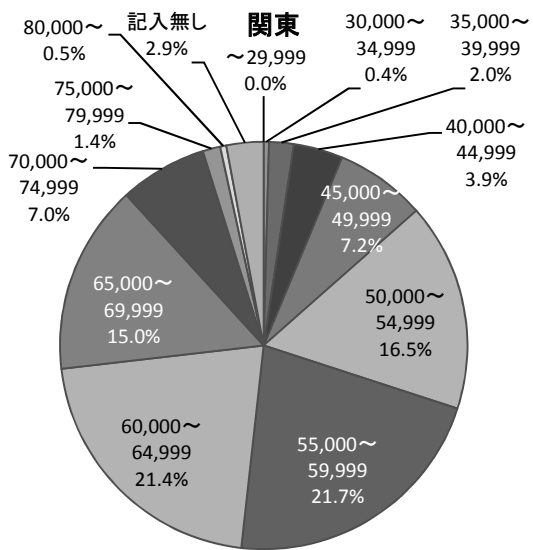
※東海・近畿地区は1泊目の宿泊地

5 地区別旅行費用(生徒一人当たり平均額) 校

	関東	東海	近畿	合計	割合
～29,999		7		7	0.4%
30,000～34,999	5	6		11	0.6%
35,000～39,999	24	24		48	2.4%
40,000～44,999	48	101		149	7.5%
45,000～49,999	88	153		241	12.2%
50,000～54,999	202	149		351	17.8%
55,000～59,999	266	168		434	22.0%
60,000～64,999	262	83		345	17.5%
65,000～69,999	184	28		212	10.7%
70,000～74,999	85	18		103	5.2%
75,000～79,999	17	2		19	1.0%
80,000～	6	3		9	0.5%
記入無し	36	9		45	2.3%
合計	1,223	751		1,974	100%

- ・1人当たりの平均費用は
55,000～59,999円が最も多い。
- ・関東地区の場合は
55,000～64,999円が最も多い。
- ・東海(愛知県)地区では
45,000～59,999円が最も多い。

※割合は全体数1,974校に対する値



6 地区別体験活動費用(生徒一人当たり平均) 校

	関東	東海	近畿	合計	割合
0	120	62		182	11.7%
1~499	9	10		19	1.2%
500~999	99	10		109	7.0%
1,000~1,499	170	23		193	12.4%
1,500~1,999	154	7		161	10.3%
2,000~2,499	176	30		206	13.2%
2,500~2,999	62	12		74	4.7%
3,000~3,499	93	28		121	7.8%
3,500~3,999	25	19		44	2.8%
4,000~4,499	39	23		62	4.0%
4,500~4,999	11	9		20	1.3%
5,000~5,499	49	16		65	4.2%
5,500~5,999	5	5		10	0.6%
6,000~6,499	10	7		17	1.1%
6,500~6,999	2	12		14	0.9%
7,000~7,499	15	6		21	1.3%
7,500~7,999	2	1		3	0.2%
8,000~9,000	8	7		15	1.0%
9,000~10,000	4	7		11	0.7%
10,000~	14	34		48	3.1%
記入無し	156	9		165	10.6%
合計	1,223	337		1,560	100%

愛知除く

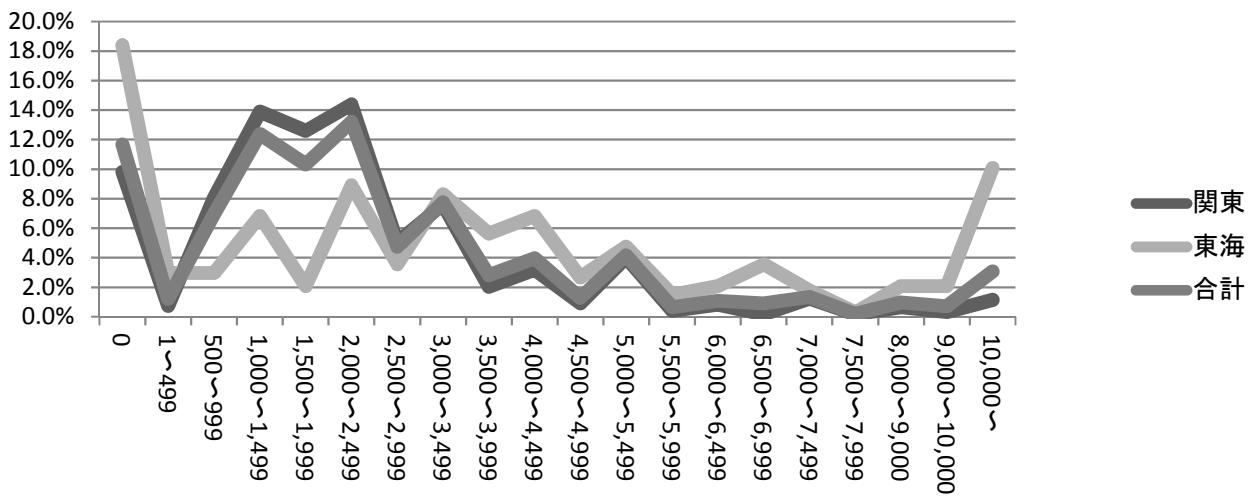
※割合は全体数1,560校に対する値

・生徒一人当たりの体験活動費用は1,000~2,499円の範囲が最も多い。

・1,000~2,499円の範囲に約35.9%の学校が含まれる。

・記入なしの学校も多く見られた。体験活動の範囲を決めかねた学校もある。

※体験活動は制作的な活動以外にスポーツ体験や宿泊体験など様々あり、費用範囲も広い。



7 方面別費用平均(生徒一人当たり平均額)円

	関東	東海	近畿
北海道			66,509
東北	50,713		67,887
会津・日光	38,651		
関東・伊豆・箱根		57,558	60,433
信州	43,519		45,819
北陸・甲信越	46,938		43,441
関西	57,982	29,000	
広島・関西	64,525	58,125	
中国・四国		57,077	43,881
九州		61,813	59,384
沖縄		69,556	66,627
海外	400,000		189,000
その他	53,938	42,333	
平均	58,303	58,462	59,668
最高額	83,000	97,000	100,880
最低額	31,365	23,000	29,668

※小数点以下切り捨て ※愛知除く
 ※海外は平均から除く

「関東地区」では
 ・関西方面は57,982円となり、昨年(59,029円)より1,047円の減となる。
 ・広島方面は関西方面より6,543円の増である。
 ・26年度修学旅行費用平均 **58,303円**となり、昨年度の57,684円より619円の増となった。
 「近畿地区」では
 ・最も多く実施している関東方面は60,433円である。
 ・沖縄の平均費用は66,627円である。
 ・26年度修学旅行費用平均 **59,668円**となり、昨年度の59,348円より320円の増となった。
 「東海地区」では
58,462円の平均額で昨年度の58,402円より60円の増である。

◎三地区平均金額は**58,811円**である。

8 方面別体験費用平均(生徒一人当たり平均額)円

	関東	東海	近畿	最高額	最低額
北海道			4,387		
東北	3,618		8,702	15,000	3,000
会津・日光	3,396			18,830	1,000
関東・伊豆・箱根		4,515	6,637		
信州	4,431	12,750	12,984	15,000	300
北陸・甲信越	10,830		12,159	1,500	600
関西	1,993			18,422	0
広島・関西	2,052	2,872		10,000	0
中国・四国		6,566	10,375		
九州		2,623	4,923		
沖縄		4,910	4,179		
その他	1,800	4,445		23,050	5,000
最高額	20,000	29,000		23,050	-

※小数点以下切り捨て ※愛知除く

・体験費用は方面により実施内容も異なるため様々である。

・近畿地区の場合はスポーツ体験や宿泊体験等含まれている場合がある。

(参考) 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

関東

校

	東北	会津 日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	記入 無し	合計
30,000~34,999		3	1		1					5
35,000~39,999		12	12							24
40,000~44,999	1	3	26	1	17					48
45,000~49,999	2	2	20	2	61			1	1	89
50,000~54,999	6		8	1	186			1		202
55,000~59,999	1	1	2		259	3				266
60,000~64,999					257	5			1	263
65,000~69,999					175	9			1	185
70,000~74,999					81	4				85
75,000~79,999					15	2				17
80,000~					3	2	1			6
記入無し	1		2		23	2		1	4	33
合計	11	21	71	4	1,078	27	1	3	7	1,223

東海(愛知除く)

校

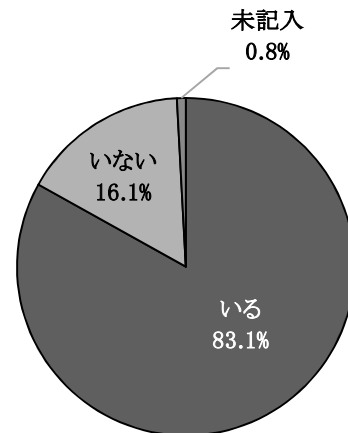
	東京	東京 横浜	関東	関西	関西 中国	中国	九州	沖縄	その他	合計
~30,000			1	1					5	7
30,000~34,999									2	2
35,000~39,999				1						1
40,000~44,999						1				1
45,000~49,999	2		6		3	3				14
50,000~54,999	31	1	12		10	6	1			61
55,000~59,999	48	13	42		13	7	2	2		127
60,000~64,999	23	5	20		6	4	10	5		73
65,000~69,999	3		5		5	4	1	9	1	28
70,000~74,999	2		3		3	1	2	7		18
75,000~79,999	1							1		2
80,000~								3		3
記入無し										0
合計	110	19	89	2	40	26	16	27	8	337

IV 修学旅行でのアレルギー対応について

1 アレルギーの生徒の有無

	関東	東海	近畿	合計	割合
いる	1,034	262	/	1,296	83.1%
いない	181	70		251	16.1%
未記入	8	5		13	0.8%
合計	1,223	337		1,560	100%

※愛知除く



2 アレルギーの生徒の人数

	関東	東海	近畿	合計
合計人数	608	651	/	1,259
平均割合	4.4%	4.3%		4.4%

※愛知除く

3 アレルギー生徒在籍割合別学校数

	関東	東海	近畿	合計	割合
1%未満	103	12	/	115	7.4%
2%未満	189	29		218	14.0%
3%未満	149	27		176	11.3%
4%未満	137	34		171	11.0%
5%未満	94	27		121	7.8%
6%未満	77	20		97	6.2%
7%未満	88	25		113	7.2%
7%以上	188	83		271	17.4%
記入なし	198	79		277	17.8%
合計	1,223	336		1,559	100%

※愛知除く

4 アレルギー対策について(複数回答)

	関東	東海	近畿	合計	割合
調査後予め連絡	942	246	/	1,188	76.2%
薬の携行	419	101		520	33.4%
保護者らとの連携	829	224		1,053	67.5%
その他	91	11		102	6.5%

※愛知除く

・食物アレルギー症状の生徒のいる学校数。

関東(84.5%)、東海(77.7%)

関東地区のほうが多めになっている。

・全学校数の約83%に食物アレルギー症状の生徒がいる。

・関東・東海地区における食物アレルギー症状を持つ生徒は全生徒の4.4%(平均)である。

*平成19年度の中学校平均は2.6%
(文部科学省調査より)

・食物アレルギー症状の生徒数が7%以上という学校数も約17%ある。

・アレルギー対策について

1原因食物を予めホテルに連絡する
……76.2%

2担任と養護教諭、保護者の連携
……67.5%

3薬を携行させる
……33.4%

・約76%の学校がホテル側に予め連絡を取り原因食物を除去してもらっている。

その他(詳細)

医療機関の確認を取っておく
引率者による共通理解
エピペン持参、保護者調理
エピペン持参
家庭から冷凍食を宿に送る
家庭と連携し、個々に対応
京都府「食物アレルギー事前調査票」
原材料一覧を当該生徒に示す
参加しなかった
代替食提供
生徒にも気を付けさせる

保護者と個々に連絡をとる
本人、保護者の了解のもと特にとっていない
有事の時の病院の確認
旅行者、民宿先、病院等に予め連絡
引率教員での共通理解
自己除去
事前に保護者・本人と確認
事前にホテルに料理を送った
自分で判断して除去し食べる
そば体験生徒は服叩き
そば体験中止

主治医から京都の病院に紹介状を書いてもらった
 症状の激しい1名については、保護者が同行し、食事の責任をもった
 成分表を取り寄せ保護者に渡す
 弁当会社にアレルギー生徒用を準備してもらう
 引率者全員が、主治医に注意点やエピペンの使い方について指導をうけた
 給食担当及び担任がメニュー成分を取り寄せ保護者と連携
 ホテルから詳細献立表を家庭に出していただき、事前に確認をとる
 当日も担任、養護教諭が食事の際に巡視、声がけをおこなう
 ホテルに連絡しておき、当日、ホテル側から2名に料理内容の説明を行ってもらった
 教師が引率し別の飲食店へ

V 修学旅行中の安全対策について

1 修学旅行中に生徒が利用したもの(複数回答) 校

	関東	東海	近畿	合計	割合
携帯電話	542	362	317	1,221	48.4%
スマートフォン	18		42	60	2.4%
PHS	70	3	2	75	3.0%
GPS	69	166	14	249	9.9%
タブレット	8		10	18	0.7%
携帯ラジオ	0		2	2	0.1%
その他	31		9	40	1.6%
利用なし	558	238	635	1,431	56.7%

※割合は回答校数2,524校に対する値 ※愛知除く

・安全対策として利用したもの
 約49%の学校が携帯電話を利用。
 約57%の学校は利用していない。
 次に、GPS利用となる。そのほか、
 スマートフォンやタブレットの利用
 となっている。

・その他として
 タクシー運転手との連携や、シル
 バーガイドとの連携というのが
 見られる。

その他(詳細)

関東

位置確認PC

インストラクターに依頼

公衆電話、タクシー運転手の無線

ジャンボタクシー

シルバーガイド(携帯)1人/班

タクシー運転手の携帯

タクシー運転手を通じて連絡

タクシー運転手とのやりとり

本部のみ

近畿

各引率教員個人のものを利用

各班で一台を代表で(タクシープラン時のみ)

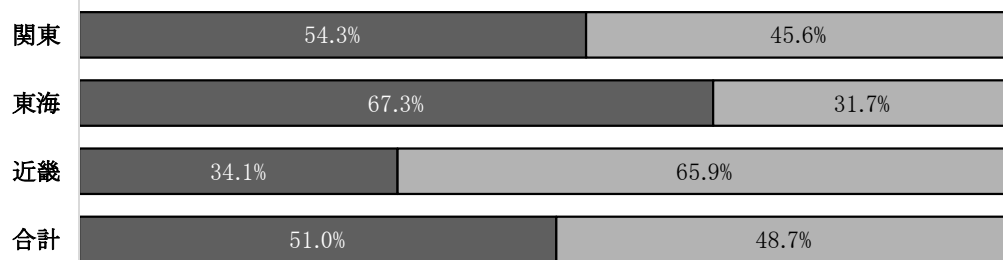
自主行動時に利用

生徒個人分利用を許可

トランシーバーを利用

ノートPC(GPSによる位置確認)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■利用あり □利用なし

2 事故発生時の対応策について(複数回答) 校

	関東	東海	近畿	合計	割合
独自の避難場所	123	36	112	271	10.7%
緊急連絡体制	1,124	168	861	2,153	85.3%
避難マップ配布	189	35	73	297	11.8%
その他	42	4	37	83	3.3%
未記入	30	94	38	162	6.4%

※愛知除く

・事故発生時の対応策として
 約85%の学校が緊急連絡体制が
 取れるようになっている。

・また、避難場所一覧(マップ)を配
 布している学校が約12%、学校独
 自に避難場所を指定している学校
 が約11%ある。

その他(詳細)

関東

AED設置場所しおり掲載

ガイド

各班の避難場所を確認する

学校独自緊急対応マニュアル作成

活動場所に職員がいく

業者による対応計画

京都市内の交番等の配置図を配布

緊急対応マニュアルの作成

食料・水の準備

シルバーガイドを班につける

スマホ利用

タクシー運転手の携帯

タクシー会社に依頼

タクシー無線利用

近くの大人に指示を聞く

避難行動の仕方を周知

避難場所業者に確認

避難場所の確認

ホテル指定

ほぼ集団で行動

本部待機、タクシー複数確保

宿で避難訓練実施

宿に確認し緊急避難場所を指定

宿の方から緊急避難場所を聞いて伝えた

旅館指定の避難場所を生徒に連絡

旅館で確認

旅行会社からの地図

旅行会社と連携

旅行会社の提案

旅行会社の避難計画による

宿で避難経路の確認

非常食持参

保険加入と添乗員、教職員の判断

特になし

ホテル等の避難経路を班長から班員に確認させた

警察・消防に連絡して避難場所を確認

保護者に緊急時の体制についてプリントを配布

東海

避難場所・集合場所をホテルに指定

ホテルをベースにする

マニュアルで指導

AED設置場所を提示

事前に対応マニュアルを作成

旅行社と相談して決める

旅行会社の指示のみ

近畿

危機管理マニュアルを作成(スキー修学旅行のため)

救命ベストをレンタルし、バスに積み込んだ

近隣病院の確認

携帯で連絡を密にする

携帯電話による緊急時の指示と位置情報確認を実施

現地受入機関(民泊)の緊急体制書面を教員に配布

現地の病院・警察署の一覧表を配布した

しおりに対策マニュアルを添付(Q&A方式)

地元担当者と綿密な打ち合わせを実施

少人数のため一緒に行動が基本

VI 「学びの集大成を図る修学旅行」の取り組みについて

1 修学旅行のねらいで重視したものは(複数回答)

校

	関東	東海	近畿	合計	割合
ア:知識の習得	1,030	257	706	1,993	79.0%
イ:集団宿泊訓練	403	73	381	857	34.0%
ウ:公衆道徳習得	761	156	459	1,376	54.5%
エ:人間関係づくり	836	211	673	1,720	68.1%
オ:教科学習発展	211	56	127	394	15.6%
カ:学習の深化	483	203	480	1,166	46.2%
キ:協力性・主体性の育成	1,071	269	655	1,995	79.0%
ク:自己課題追求	127	47	56	230	9.1%
ケ:その他	16	30	82	128	5.1%
未記入・空欄	4		27	31	1.2%
合計	4,942	1,302	3,646	9,890	

※割合は全体数2,524校に対する値 ※愛知除く

その他(詳細)

学級団結を図る
感謝の心
リーダー育成
話し合い・成果まとめの学習
自力解決能力の向上
学校の取組の具体化
集団意識の向上
体験活動

・班行動による協力性、主体性の育成

----- (約80%)

・見聞を広め、知識の習得

----- (約80%)

・人間関係づくり

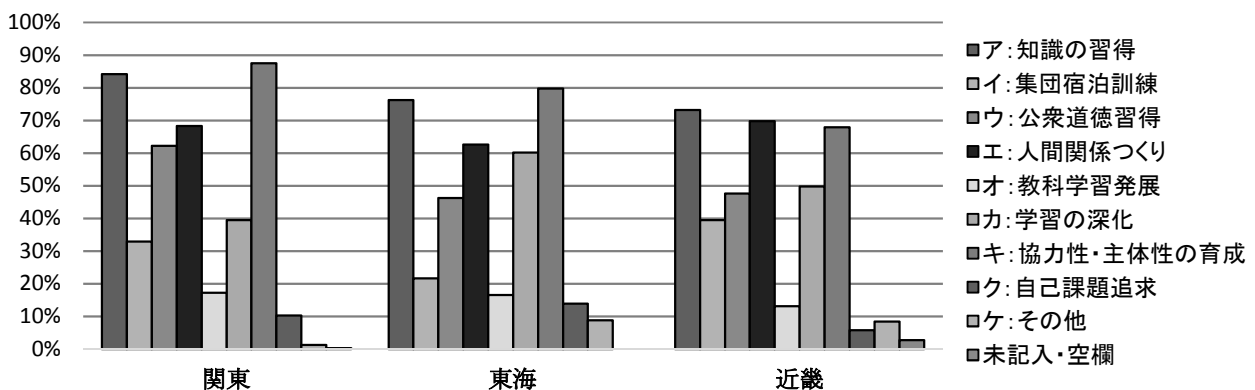
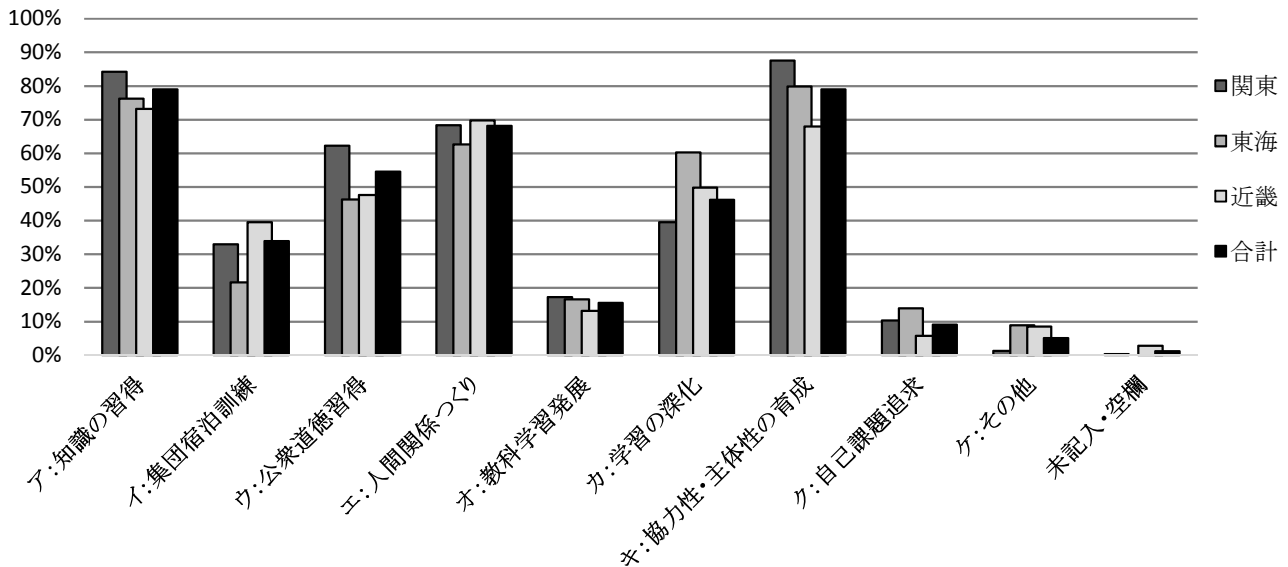
----- (約68%)

・公衆道徳の習得

----- (約55%)

「班による活動を通して、協力性や主体性を育てたい」「見聞を広め、知識の習得」を図りたいというのが80%の学校でのねらいとなっている。

また、人間関係づくり(コミュニケーション能力の育成)を考える学校も多い。



2 主体的に取り組むための方法(複数回答)

校

	関東	東海	近畿	合計	割合
ア:生徒中心に企画	486	75	286	847	33.6%
イ:班行動計画を自作	1,065	151	566	1,782	70.6%
ウ:自ら体験活動を調べる	283	112	512	907	35.9%
エ:教科で事前事後学習	190	67	390	647	25.6%
オ:学校生活で工夫	320	131	513	964	38.2%
カ:その他	4	2	30	36	1.4%
合計	2,348	538	2,297	5,183	

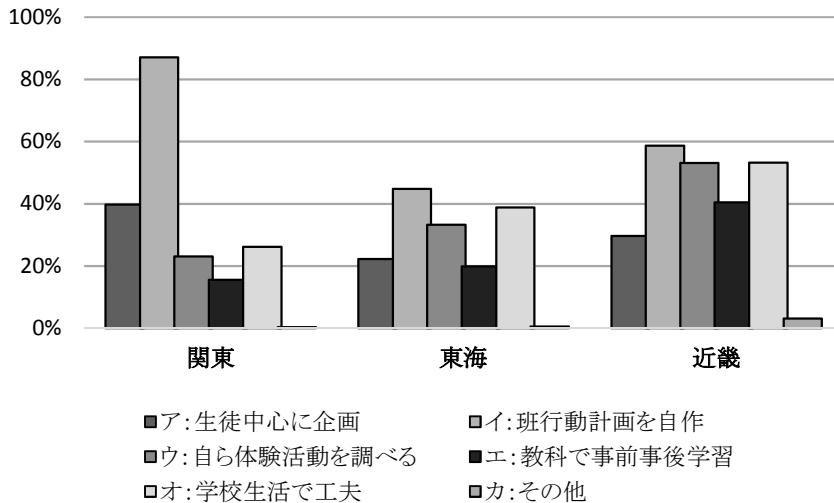
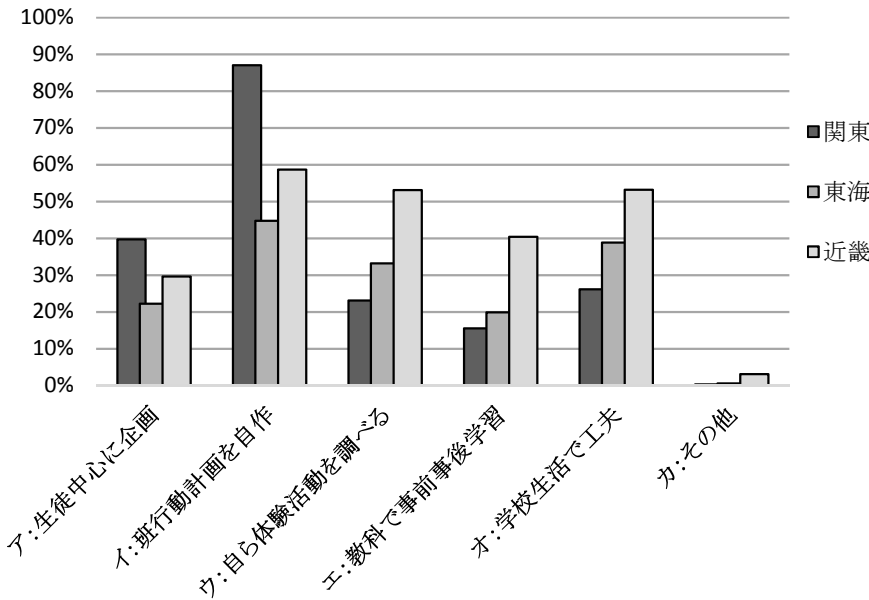
※割合は全体数2,524校に対する値 ※愛知除く

・主体的に取り組むための方法として「班別行動計画を自分たちの手で立案する」が約70%で最も多い。

生徒が最も関心の高い、現地における班別行動を班の仲間達と共に計画していく事は主体性を育てる上でも最も効果的な事と考えられる。

次に「日々の学校生活の中で主体的に取り組む工夫をする」というのが約33%、約36%の学校が「体験活動は自分たちで調べ興味関心を持たせる」「企画・計画の段階から生徒中心に進める」となっている。

修学旅行の時だけでなく、学校とし



3 最も影響を受けたもの(複数回答)

校

	関東	東海	近畿	合計	割合
ア:実際に見て触れて感動	399	63	462	924	36.6%
イ:予想以上の感動	523	84	607	1,214	48.1%
ウ:実際の体験での興味	243	115	358	716	28.4%
エ:現地の方との触れ合い	107	57	164	328	13.0%
オ:学校生活で工夫	6	8	14	28	1.1%
合計	1,278	327	1,605	3,210	

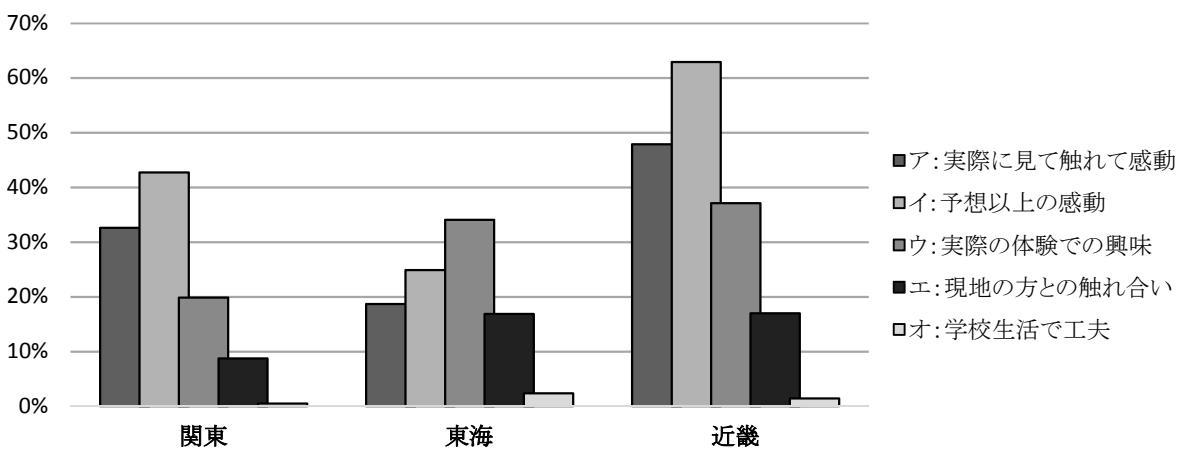
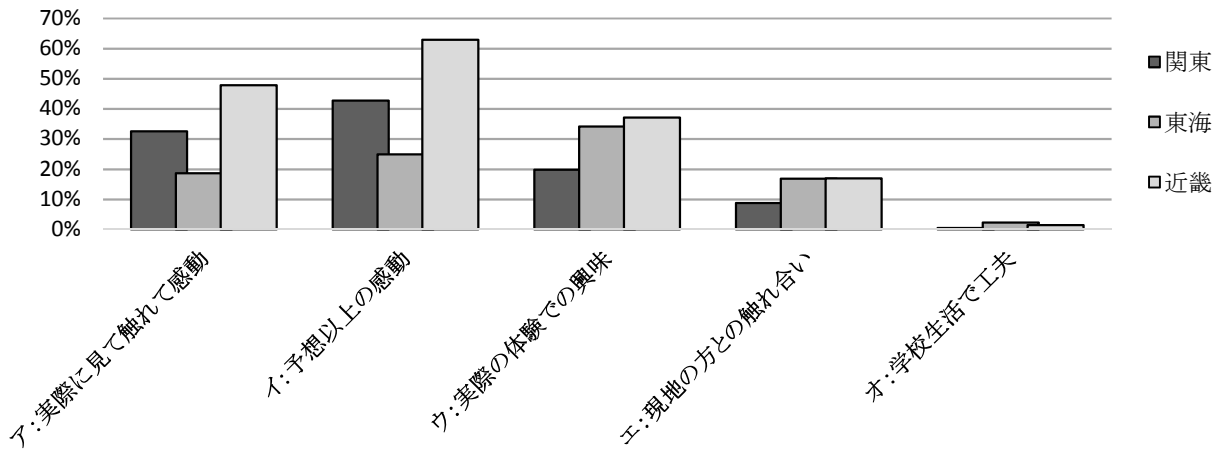
※割合は全体数2,524校に対する値 ※愛知除く

・最も影響を受けたものとして「自分の想像を超える大きさ、美しさに感動を得た」というのが最も多く、約48%であった。

また、「学んだことを実際に見て感動した」というのも約37%と多い。

感性を育む過程において感動を得る、ということは大変重要なことと考えられる。

実物に触れる事のできる修学旅行の意味がここからも理解できる。



4 被災地復興支援について

(1) 修学旅行に関連して復興支援活動(募金等)を行ったか

	関東	東海	近畿	合計	割合	校
支援した	48	/	31	79	3.6%	
特にしていない	1,145		854	1,999	91.4%	
未記入	30		79	109	5.0%	

支援活動の具体的な内容

行く

岩手への修学旅行

現地でのボランティア

オペレッタ実施

交流校への支援

講話を聞く

体験に被災地

生徒会による募金

生徒の交流・物資の輸送

募金

苗木育成

ひまわりの種のボランティア

神戸:防災未来センターの訪問と募金

緑のバトン運動へ参加

福島県相馬郡新地町立尚英中学校との交流

生徒会が全校に物資を届けるための呼びかけをして、送っている

・被災地への復興支援活動については支援しているという学校が昨年の39校から今年は48校と約10校増えている。(関東地区)

・支援した学校

3.9%(関東地区)

3.2%(近畿地区)

3.6%(関東・近畿地区合計)

・支援の内容については昨年は募金、義援金というものが多かったが、今年は復興コンサートを開催したり、応援Tシャツを作成し義援金を送ったり、宮沢賢治の詩を群唱、苗木の育成等、自ら参加型のものが増えている。

・今年は現地に行ったり、学校間で交流したり、講話を聞いたというのがあった。

VI まとめ

学習指導要領によると、学校行事の内容の取扱いについて、「…。また実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」等述べられている。

特に体験活動については、『その場限りの活動に終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後には体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り文章でまとめたり、発表しあったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要がある』となっている。

調査にあたっては、毎年継続調査をしている、[修学旅行実施概況]と[修学旅行における課題調査]という2点に絞っての調査・研究をした。

課題調査については、「学びの集大成を図る修学旅行」の取り組みについて継続調査とし、感性を育む修学旅行の実現のため、現地で最も影響を受けた事について調査してみたところ、自分の想像していた以上の美しさや、大きさなど直接触れる事による感覚的なものが与える影響の大きさがはっきりと結果として出てきた。

また、授業の中で学んだことに実際触れたり、見たりすることも大きな感動の要因となっている事が窺われる。

年々授業の中で修学旅行に関する学習の場面が減少している、という結果が出ていることは大変危惧しなければならないことである。昨年の調査の中で特に、事後学習の時間が減少している事がわかったが、学習結果を確かなものにするためにも、感動をより効果的にするためにも事前・事後学習をもう一度考えてみたいものである。

体験活動についてはその場限りの活動に終わることのないよう、事前にねらいを十分理解し、行動計画を自らの手で作成し、体験で得たものを事後学習の中で、いかに共有化を図る事ができるかが、生徒の主体的な取り組みにもつながるものと考えられる。

平成26年度研究調査報告
修学旅行の実施状況調査
修学旅行の課題調査『学びの集大成を図る修学旅行』の取り組みについて

平成27年3月
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
Tel:03-5275-6651 Fax:03-5275-6653
E-mail: shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com>